学校事例 2

「授業記録」で見取りを共有 個に寄り添う授業を20年間追求

神奈川県 横須賀市立池上中学校

20年ほど前、荒れの渦中にあった横須賀市立池上中学校は、「個に寄り添う授業」を通して生徒の居場所を学校に確保し、立て直しを図った。学校が落ち着きを取り戻した今も、生徒一人ひとりの見取りを重視した授業研究を続けている。

課　題

- 荒れた時期が長く続き、学力向上の施策にまで目が行き届かなかった
- 不登校が多かった

実　践

1 「個に寄り添う授業」への取り組み

- 「グループ活動」を導入し、生徒同士が認め合い、学び合う機会をつくる
- 「授業記録」を活用して、生徒やクラスの様子を教師間で共有
- 「振り返りシート」を生徒に記入させ、授業ごとに生徒の感想などを把握
- 「教科三者面談」を実施。教科担当も個々の生徒との接触機会を持ち、適切なアドバイスを行う

2 月２回ペースの校内研究授業

- 「座席表」を活用し、個の見取りを重視した研究授業を実施
- 研究授業の時間を確保するため、前年度に日程を決定しておく、学校行事を精選するなどの工夫をしている

成　果

- 生徒の学習意欲が向上
- 不登校が減少

School Data

◎1947（昭和22）年開校。2002年度以降継続して、横須賀市フロンティア研究委託校。「共に学び合える学習集団育成のための学習指導」を中心とする授業研究に取り組む。

校長◎平野はるひ先生

生徒数◎427人　学級数◎ 14 学級（うち特別支援学級２）

所在地◎〒238-0035　神奈川県横須賀市池上 3-5-1

TEL◎ 046-851-1255

URL◎ http://schoolnet.edu.city.yokosuka.kanagawa.jp/schoolnet/juniorhigh/209ikegami/index.html

「学力保障」のために、移行期間の今できること
第2回

学力下位層が伸びる授業づくり

落ち着きを取り戻すため まず授業研究に着手

池上中学校は、過去に荒れた時期を長く経験してきた学校だ。そのピークだった20年ほど前、学校立て直しの軸として始まったのが授業研究だった。「生徒指導」の研究ではなく、なぜ「授業研究」に取り組んだのか。平野はるひ校長は、次のように話す。

「そもそも研究のスタートは、生徒指導という形で介入しても、根本的な解決に至らないということからでした。それならば、学校に生徒の居場所をつくろうと考えたのです。生徒一人ひとりが授業の中で力を発揮できる場面を用意し、生徒同士、生徒と教師が認め合う関係をつくる。その中で、自己肯定感を抱かせることが、学校を立ち直らせ、ひいては学力向上にもつながるはずだと考え、その考えの下、今日まで研究が継続されてきました」

以来、研究テーマは20年間一貫して、「個を理解し、個にせまり、個を生かす」。生徒全員が授業に参加すること、生徒一人ひとりを見取ることを重視してきた。教師がクラスや生徒について気づいた点を簡単にメモする「授業記録」、生徒自身が授業の感想などを記入する「振り返りシート」などを普段の授業で用いて、徹底して生徒一人ひとりを見取る取り組みを続けてきた。

グループ活動を取り入れ 生徒全員が参加できる授業に

「個を理解し、個にせまり、個を生かす」授業を実践するため、同校が軸としているのはグループ活動だ。指導案（P.18～19）にあるように、どの教科の授業でも、提示された問題について、2人組または4人前後のグループに分かれて話し合う場面を設ける。

「小グループでの活動を取り入れることで、すべての生徒が授業に参加することが出来ます。一斉授業ではなかなか発言できない学力下位層の生徒も、小グループでなら分からない部分を友だちに質問したり、発言したりする機会が得られ、学習意欲が高まります」（平野校長）

グループ活動は生徒同士の学び合いの場だ。生徒一人ひとりが発言でき、それに対して反応が返ってくることによって考えを深め、意欲を高めることにねらいがある。研究主任の香西由美子先生は、グループ活動は生徒の見取りもしやすいと話す。

「グループ活動というと、生徒の見取りが難しいというイメージがありますが、必ずしもそうではありません。むしろ、集団の中での生徒それぞれの役回りも見え、一斉授業での見取りよりも、生徒の個性が見えやすいというメリットがあります」

ただし、こうした活動が出来るようになるためには1年生からの積み上げが必要だ。教務主任の河合健治先生は、次のように話す。

「いきなりグループで話し合おうといっても1年生はなかなかできません。グループに分かれて机を合わせるところから始めます。最初は机が少し離れているだけでも厳しく指導します。また、1教科だけではなく、すべての授業でグループ学習を取り入れているので、生徒もすぐ慣れていきます。そうした中で、男女のこだわりなく、意見を言い合える関係が出来ていくのです」

同校におけるグループ活動は、新学習指導要領で言及されている「言語活動」を意識した取り組みでもある。

「新課程の全面実施を前に、これまでの取

横須賀市立池上中学校校長
平野はるひ Hirano Haruhi
「本校の良き伝統である『個に寄り添う授業』を大切にし、更に磨きをかけていきたい」

横須賀市立池上中学校
河合健治 Kawai Kenji
教務主任、1学年主任、国語科担当。「生徒の持てる力を発揮させたい」

横須賀市立池上中学校
香西由美子 Kouzai Yumiko
研究主任、3学年担当、数学科担当。「教育とは『強育』、強く育てること」

り組みを見直し、これまでやってきたことの意味を再確認することを、10年度の授業研究では特に力を入れています」（平野校長）

生徒の様子は「授業記録」で教師間で共有

授業での見取りの工夫に加え、生徒の見取りを教師間で共有し、更に多面的に見るための工夫もある。そのツールが「授業記録」だ。

同校には、各学年の教室と教室の間に、学年団の教師が利用する控え室がある。そこに置いてある「授業記録」に、授業終了後すぐに授業中の生徒の様子で気づいた点を個人名を挙げて記入するのだ。1日につき1ページ、全4クラス分の各授業について書き込めるようになっている（**図**）。用紙はファイルにまとめ、教師はいつでも見ることが出来る。

「他の授業で生徒はどのような様子なのか、生徒を見取るための指標として共有しています。前の時間にこんなトラブルがあったから今の授業でちょっと配慮しようなど、生徒指導的な観点でも見ています。教科の面では、例えば、国語ではあまり頑張れない生徒が社会では非常に頑張っているなど、生徒一人ひとりを多面的に見る材料にもなっています」（河合先生）

また、生徒自身にも授業の振り返りをさせている。授業の終わりに、生徒は個人個人の「振り返りシート」（「つぶやきカード」「学習カード」など教師ごとに名称は異なる）に、授業の感想、反省、学んだこと等を記入する。毎時、教師が回収し、生徒の様子を確認するための資料としている。

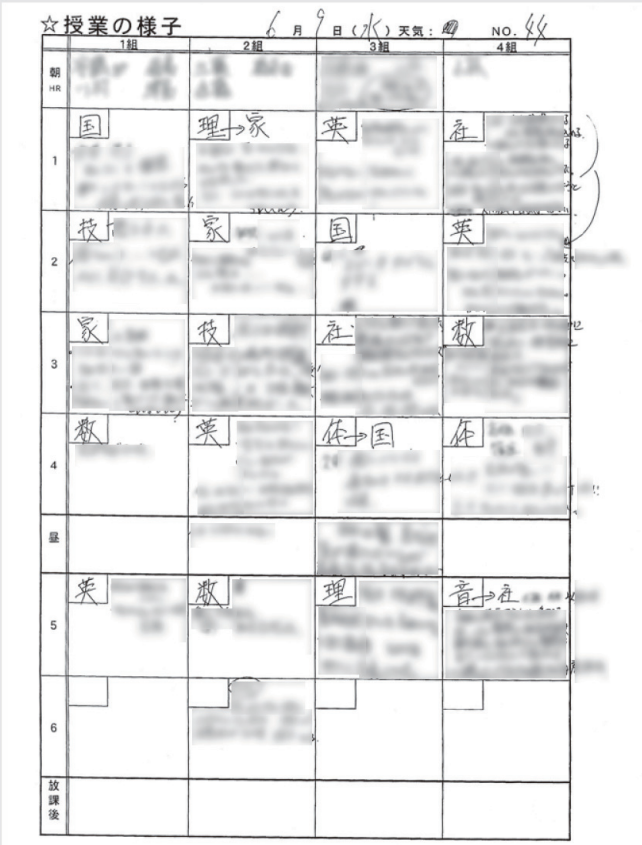
生徒を多面的に見るという観点で、学級担任による三者面談のほか、教科担任による三者面談も行う。生徒が希望する教科について、自分の学習の状況や勉強の仕方などを、教科担当の教師に質問・相談する。生徒が希望すれば全教科受けることも可能だ。また、生徒一人ひとりの成績等に関する資料は、生徒個別に3か年分のすべてをファイルし、校長室に保管している。

「初めて受け持つ生徒でも、得意なことや不得意なことなどを把握できるので、面談前にはこのファイルに必ず目を通しています。定期考査の一時的な成績ではなく、1年生からの成績推移を追いながら、どの教師も的確にアドバイスできます」（河合先生）

会議の短縮、行事の精選などで月2回の授業研究を必ず実施

生徒をしっかり見取り、グループ学習の効果を高めるために、研究当初から月2回の「校内授業研究会」を実施している。形式は2種類。一つは「校内研究授業」で、教師を3グループに分けてグループ内で授業を参観し合

図　「授業記録」



各学年の控え室に置いてあり、授業終了後、クラスの様子について細かく記入する。それにより、次時の担当教師はクラスの様子を把握した上で授業に臨むことができる

「学力保障」のために、移行期間の今できること
第2回

学力下位層が伸びる授業づくり

うというもの。もう一つは「全体研修会」で、道徳あるいはその他の1教科を全校一斉に参観し、討議するものだ。

いずれの場合も、参観時には、生徒個人の普段の様子と今回の授業に際して期待するポイントが書かれた「座席表」を配布。注目してほしい生徒を授業者があらかじめ指定し、その生徒の反応を中心に見取っていく。授業終了後は、グループ別に授業を振り返りながら研究討議を行う。

「『抽出児の様子』『グループ活動時の声掛けは適切だったか』など、討議のポイントは事前に提示されているので、話の中心がぶれません。グループ別の討議では、授業者や助言者もどこかのグループに入り、更に輪の中に加わって話し合います。一参観者として意見を述べてもらうことで、より話し合いは深まっています」（香西先生）

授業研究を定期的に行うために、時間確保の工夫もしている。授業研究の日程は前年度のうちに年間計画に組み入れ、計画的に準備する。職員会議は、事前に部会を行い、議題をある程度絞り込むことで、効率化を図っている。また、学校行事を精選。体育祭の代わりに陸上競技会とし、合唱大会も行わないなど、行事の準備時間を減らした。

授業研究が20年にわたって続けられてきた理由を、平野校長は次のように分析する。

「一人ひとりの子どもを学習に向かわせるための最良の手段を探りながらつくってきたのが、現在の体制です。その経緯や意味が代々の校長や教師にしっかり継承されてきた背景には、落ち着いて授業に臨み、学校生活を送る生徒の姿があると思います。こういった成果を実感できるから、継続できているのでしょう」

グループ学習は、２人組で行う場合と、４人以上のグループで行う場合がある。基本的に男女混合で行い、どの教科でも行うため、初めは恥ずかしがっていた生徒も、次第に臆せず話せるようになる

「学校が好き」という生徒の声を励みに更なる改善を

こうした取り組みを継続した結果、学校は落ち着いた状態を保っている。授業で臆せずに挙手・発言する姿が見られるなど、生徒は学習に対して非常に積極的だ。

「不登校は少なく、『学校が好き』という生徒が多いですね」（平野校長）

同校が目指したのは、学校や授業に生徒の居場所をつくることだった。20年の継続によって、ねらい通りの効果を上げていると言えるだろう。

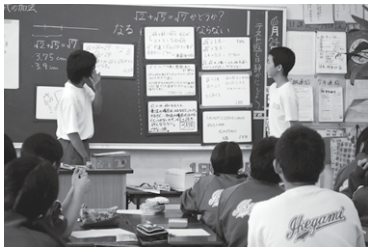
一方、家庭学習が定着していない環境の生徒が多いため、始業前に希望者による学習会、放課後に学力的に配慮が必要な生徒を呼び出し実施する補習など、授業以外のシーンでも学力向上のための手立てを講じている。

「他校から赴任したばかりの先生は、授業のつくり方や研究授業の多さなど、本校の取り組みにとまどわれることも多いようです。しかし次第に、すべては個に寄り添うための意義あるものだと納得してくれるようです。今後は、踏襲すべきものと見直すべきものを検証し、『池上スタイル』に磨きをかけていきたいと思います」（平野校長）

個に寄り添うことを重視した池上中学校の授業例 1　3年生数学（香西由美子教諭）

本時のねらい
・根号を含んだ式の加法の結果が1つの数であることを理解する
・自分の考えの根拠を示して推論する力を伸ばす

＜授業記録のチェック＞　Bさんの表情が良くない状態だったので、指導上留意する

	学習活動	指導上の留意点
導入	**1 本日のベル学習** ●根号の中は、できるだけ小さい自然数にすることを確認 ●２人組になり、カードで音声計算を行う	**Point!** ペア学習を取り入れる
展開	**2 問題提示** ●面積２㎠の正方形と、面積５㎠の正方形を作図し、それぞれの一辺をつなげて線分を作ろう。線分の長さはどう表わされるだろうか？ ●方眼を入れたワークシートに作図する ●まず生徒１人で考える ●生徒の意見を求める （生徒の反応）・定規で測って約3.7㎝ ・3㎝から4㎝の間 ・$\sqrt{2}+\sqrt{5}=\sqrt{7}$ ・よく分からない	○コンパスを使って$\sqrt{2}$㎝と$\sqrt{5}$㎝を作図できることに気づかせる ○お互いに思いついたことを言い合う時間を設ける **Point!** まず生徒一人ひとりで考えさせる時間を設ける
展開	**3 課題を明確化** ●$\sqrt{2}+\sqrt{5}=\sqrt{7}$となるだろうか？ ●「なる」派と「ならない」派同士で４人前後のグループに分かれ、その考えの根拠について協力して考える （生徒の反応）・なる ・ならない ・分からない	○考えを伝え合う／演繹的に推論／図で説明／反例を挙げ、考えが正しいことを述べる **Point!** 一人で考えたことを踏まえて、グループで話し合わせる活動に移行する
展開	**4 課題の解決** ●各班で話し合い、班の意見をホワイトボードにまとめる ●各班の代表者が発表 	○これまでの学習や既習知識から考えて1つの意見に絞り、その根拠が他のグループにも分かるようにまとめる ○仲間の発表を聞き、$\sqrt{2}+\sqrt{5}=\sqrt{7}$とはならないことに気づく **Point!** 言語活動を意識した指導
まとめ	●$\sqrt{2}+\sqrt{5}$の計算についてまとめる ●「つぶやきカード」に本日の質問、感想を記入	**Point!** 「つぶやきカード」への記入

＜授業記録への記入＞　３班は、Bさんのつぶやきをきっかけに良い話し合いが出来た

「学力保障」のために、移行期間の今できること
第2回

学力下位層が伸びる授業づくり

個に寄り添うことを重視した池上中学校の授業例 2　1年生国語（河合健治教諭）

本時のねらい　・熱く語ろう！　1分間スピーチでの表現力を伸ばす

＜授業記録のチェック＞　前時の体育で全体的に説明を理解しきれていない。特にAさん

	学習活動	指導上の留意点
導入	**1 漢字テスト10問を行う（毎時実施）** ●教師が口頭で言う単語を漢字で書き取る **2 過去の自分のスピーチを振り返る**	○採点の際に間違えやすい箇所を指摘する ○自分のスピーチに対する友だちからのコメントを読み返し、長所と改善点を確かめる
展開	**3 ２つの課題について、隣同士で賛成役・反対役に分かれて熱く語る** ●テーマ「夏休みの宿題は必要か」 「優先席は必要か」	○自分の立場の考えを相手に伝えようとしているかどうか **Point!** ペア学習に取り組む。話すのが苦手な生徒を特に重点的にフォロー
	4 代表者が２人ずつ前に立ち、賛成意見・反対意見を主張する	○相手の立場を考えながら話を進める ○代表者の発表を評価しようとしている
	5 ４人組になり、１人ずつスピーチの練習をする ●テーマ「私の好きなもの、こと、人」 ●スピーチで大切なことについて各班代表が発表 （生徒の反応）・視線（みんなの方を見る） ・声の大きさ ・内容を整理して分かりやすく伝える ・熱く語る	○長所と改善点を指摘し合わせる **Point!** グループ活動。言語活動を意識する ○スピーチで大切なことを考えさせる
	6 １分間スピーチの発表と評価をする ●発表者自身が感想を募り、挙手した生徒を指名する	○過去２回のスピーチより良くなっている点に注目させる ○友だちに少しでも熱く語ろうとしている
まとめ	●「学習カード」に記入する	○成長した点を考えさせる **Point!** 「学習カード」への記入

＜授業記録への記入＞　Aさん、とても熱く語ると共に、相手に分かりやすく説明しようとしていた。スピーチも上達！